

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

市場介入が歪めた日本の経済構造

佐々木融(ふくおかフィナンシャルグループ チーフ・ストラテジスト)

1. 日本は1993年から2011年までの19年間に76兆円もの円売介入を行った。これが結果的に日本の経済構造を歪めてしまったということはないのだろうか。当時も「円高は投機的な動き」として、大量の円売介入で対抗した。しかし、あれだけの貿易黒字を稼ぎ出していたのだから、円高になるのは当然のことだ。
2. それを正面から受け止め、円高でも生き残れる製造業だけが残り、そうでない企業は違うビジネスに転換していれば、もしかしたら今頃、米国のGoogle、アマゾン、ネットフリックスが提供しているサービスを日本企業が担っていたかもしれない。本来政府がやるべきだったのは、そうした変革の後押しだったのではないだろうか。しかし、変に「当局が円高を阻止してくれる」という期待感を企業に持たせたままだったので、日本は産業構造の転換に失敗し、生産性の低い国となってしまったとは考えられないだろうか。
3. 足元のように、円安を阻止しようとコントロールを続けていると、先行きの日本経済に今度はどのような歪みを与えるのだろうか。そもそも円買い介入は、円安介入とは異なり、介入原資に限界があるため、円安を止められる可能性は低い。そう考えると、さらなる円安進行に備えて、本来であればビジネスモデルを考え直さなければならぬ輸入企業の決断を遅らせてしまうという結果になることはないだろうか。

(参考:「東洋経済」2024年4月20日号)

経営者のための危機管理

中小企業に金利上昇の調整圧力

1. コロナ禍で売り上げが減少した個人事業者や中小企業に対して、政府系金融機関や民間金融機関から行われた実質無利子・無担保の「ゼロゼロ融資」は、総実行額43兆円で、約245万件(2022年9月末)。それによって多くの中小企業が救済されたが、その返済開始は23年7月~24年4月に集中するといわれており、マイナス金利解除、17年ぶりの利上げはそのタイミングとぶつかる。
2. 利払いに窮した中小企業が破綻した場合、従業員が人手不足に苦しむ他の中小企業へ移ることもあった。その意味ではコロナ禍のゼロゼロ融資は、苦境の企業を救う効果があった半面、人手が必要な企業や業種への労働移動が起きずその後の人手不足を助長することになった。救済措置はごく短期ではプラスだが、中長期では弊害の方が大きいとされている。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2024年4月27日・5月4日号)

ワンポイント経営アドバイス

「修羅場と社外」がCFOの必須条件

松田千恵子(東京都立大学大学院教授)

1. 数字とビジョンが語れることは経営者に求められる大事なスキルなので、それができるCFO(最高財務責任者)が社長になるのはある意味で当たり前のルートです。かつて日本にCFO的な経営者がいなかったわけではい。本田宗一郎とともにホンダを世界企業にした藤沢武夫は、CFO的な経営者だったはずだ。昔から、日本にも「リスク」と「夢」を分けてうまく経営できる人材はいた。
2. ①経営の観点から数字が分かる②修羅場の経験がある③会社を外から見た経験がある。これが私が考える「CFOになるための必要条件」だ。特に大事にしてほしいのが修羅場の経験。代表的なものだと、「会社存続の危機」といった極限状況で腕を振るった実績である。事業売却で売り先と厳しい交渉を詰めたり、労働組合と談判したりといったハードな事例を乗り越えた経験なども挙げられる。

(参考:「日経ビジネス」2024年5月13日号)

古典に学ぶ

煩惱ほんのうのひとつが怒り

1. 人間にとって、もっともやっかいな煩惱ほんのうのひとつが怒りです。なぜなら怒りという感情は、自分の外側に向かっていく傾向があり、時には、他者への暴力的な言葉や行動につながることがあります。
2. それだけではありません。一度燃え上がった怒りが収まらず、自分自身の心を燃え尽くすことさえあります。いずれにしろ、怒りは負の連鎖を生む「害悪製造機」といっていいでしょう。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)